

平成30年度(2018年) 《第8号》

貞香会 会報



2018 TEIKOKAI Annual Report

素堂先生の求めた書



会長 赤平泰処

昨年十二月一日から今年の一月六日まで、東京都美術館で開催された「喜怒哀楽の書」展で、中村素堂先生の書とコレクションが展示されたことは、本会にとって最高の慶事であった。弟子としても嬉しく、何か誇らしい気持ちになり、何度も足を運んだ。先生の書に対する見方、考え方が伝わってくる素晴らしい企画展であった。

隸書『曲肱』の作は、昭和三十六年十一月十七日から二十日まで銀座松屋画廊で開催された還暦記念個展の作品で、随分草稿をかさねたそうで、数点残っていた中から、学生の時にこのミニ作品を頂戴した。いま私の書斎に掛かっている額がその作品である。篆書風の作で、私の書の原点になっている。

曲肱とは『論語』述而に、「疏食を飯い、水を飲み、肱を曲げて之を枕とす。楽も亦其の中に在り。」と記され、曲肱の

楽しみといって、貧しい中でも、うで枕してごろ寝する楽しみがある。心の豊かさ、自然な生活のゆとりを述べている言葉で、私も作品制作の後、肱を枕にして横になり作品を見たりするが睡魔が先にきて、楽しみの境地と程遠い現状である。先生のコレクションは「楽」をテーマに書家の楽しみの一端が展示された。先生の鑑賞眼の高さ、求めた書の美の深さが実によく理解できた。

展示されていた中村不折、中林悟竹、西川春洞、武田霞洞、西川寧、松井如流や歌人の人達の書は、それぞれ世間で評判になっている書きぶりとは一味違った趣の作品であった。そこには素堂先生の選択眼があり、深い呼吸感の中に生まれた個性が筆勢と相俟って明るく開花し、清浄で美しい書の世界が展開されていた。

この展覧会を通して、我々貞香会が求める書の理想を先生から教示されたと思う。会員の皆さん一人一人の精進が会的一步に繋がるように進取の気迫に満ちた作家集団でありたいと願っている。

退任のあいさつ



理事長 中村 青藍

歴代の理事長にならない、三期六年の任期でありましたが、皆様のご支援ご協力を賜り何とか務めさせていただきましたこと、深く感謝申し上げます。

また、平成三十一年一月二十三日の貞香会総会において新理事長に光谷素仙先生が就任されました。同時に副理事長二名の先生が発表され、奥山泰嶺先生が再任され、坪内雪山先生が新任されました。新体制の先生方に変わらぬご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最近、私は素堂先生の作品を、先輩、諸先生の協力を得て、折手本を中心にデータベース化を進めています。これをどう活かすかは今後の課題ではありますが、中でも「百人一首」、「三十六歌仙」などの和歌の散らし書きは必見です。古筆に至っては主要なもののお大半は臨書されたものが残されています。習いやすいものとしては、「万葉抄」、紀貫之の「大井

川和歌の序」など、挨拶文の「消息帖」や「尺牘帖」なども残されています。隸書、篆書に至ると素堂先生の文字の造詣の深さに感服いたします。これらを教材にして作品の制作に活用できないか、古典研究会の復活も含め検討してみたいと思っております。

書を楽しく書くにはどうしたらよいか、よいお手本を手元に置きたくさん習うことです。古典と向き合い臨書することも大切です。素堂先生はここまでを内稽古といい、この先の作品制作を舞台稽古と言っていました。会場で得られる知識が上達の一番の近道と思います。

論語の中に、「游於藝・芸に遊ぶ」という言葉があります。孔子の時代は、芸に遊ぶの芸は六芸(りくげい)のことを指しました。礼(礼節)、楽(音楽)、射(弓術)、御(馬術)、書(書道)、数(算術)は貴族たちの不可欠の教養でした。学問・道徳ができた人達が最後に楽しむ境地だったようです。芸に遊ぶことは人生の至上の幸福だったようです。書に遊び、書を楽しましましょう。

6年間ありがとうございました。

平成三十年度 貞香会総会報告

平成三十年度定期総会は、一月二十四日（水）午後二時から、東京都美術館講堂において開催されました。総会には顧問の荒木大樹先生、参与の若井香樹先生、参事の山根紅樹先生、二木秀蔭先生、のご臨席のもと、二十二名の会員の出席をもって開催となりました。

総会は、鈴木蓮徑理事の司会で進められ、開会のことばを中村青藍理事長が行い、赤平泰処会長が挨拶をされた。今年には貞香会が創立九十六年を迎えるため、新たな気持ちで貞香書展に向けて、多くの会員の皆様のご協力をお願いしたい。明日の貞香会へ向かって、本日の総会の議題についてご審議をお願いしたいとの、旨を述べられました。

次に委任状の確認を司会より報告があり、会員数二四七名の内、総会出席者二十二名、委任状提出者百六十名、合計百八十二名になり、総会が成立いたしますと報告がありました。議長には今井泰篁理事が選任され議事に入りました。

まず、第一号議案の平成二十九年事業報告が根本泰邸事務局長より、第二号議案の平成二十九年決算報告が後上菁華理事よりあり、その後、会計監査報告が杉戸泰岳監事よりあり、一括承認されました。

次に、第三号議案の平成三十年度事業計画案が根本事務局長より説明され承認されました。

続いて第四号議案の平成三十年度予算案が後上理事より提案され一括承認されました。

その他の議事については、平成三十年より錬成会の他、錬成合宿を予定していると根本事務局長より提案があり承認、他の議事特になく、今井議長が拍手の中、議事が終了したことを宣しました。

最後に、奥山泰嶺副理事長の閉会のことばで締めくくられ、総会が無

事終了いたしました。

これにつづく懇親会は、七十名程の参加で盛況でありました。その席上で、総合書展で受賞された方々がステージ上で喜びのコメントを述べ、また第七十回毎日書道展の審査員は松本宜響参与が務めることが発表され、盛会のうちに滞りなく終了いたしました。

【平成二十九・三十年度役員名】

〔顧問〕	荒木大樹	中村素岳	長谷川耕心
〔参与〕	大野宜白	晝間欽堂	中谷春径
	室生大韻	八木舜堂	若井香樹
〔参事〕	柏木南城	加茂泰玄	中村大如
	平林大舒	二木秀蔭	山根紅樹
〔会長〕	赤平泰処		
〔理事長〕	中村青藍		
〔副理事長〕	奥山泰嶺	光谷素仙	
〔理事・事務局長〕	根本泰邸		
〔理事〕	飯野彩心	今井泰篁	金子正信
	小峰紀州	鈴木蓮徑	高木素近
	坪内雪山	富田青軒	中村香柯
〔監事〕	長尾泰邨	杉戸泰岳	三浦看山
			後上菁華
			高橋珠翠

『喜怒哀楽の書』展

平成30年12月1日～31年1月6日
於 東京都美術館



書の作品化の過程で込め

られた作家の思いや、作品をめぐる様々なエピソードに焦点を当てて、「喜」「怒」

「哀」「楽」の感情表現に沿った、近代に活躍した上田桑鳩、西川寧などの作品の展覧会が開かれた。同時に

『楽しむ』書と題して、江戸東京博物館所蔵の中村素

堂コレクションの中から、書作品3点(うち2点を遺墨集より転載)、中村先生が生前に蒐集された河東碧梧桐、室生犀星、若山牧水などの文人、歌人の歌短冊も多数展示紹介された。楽しむ書について東京都美術館発行の目録に詳しく解説されたので、紹介する。

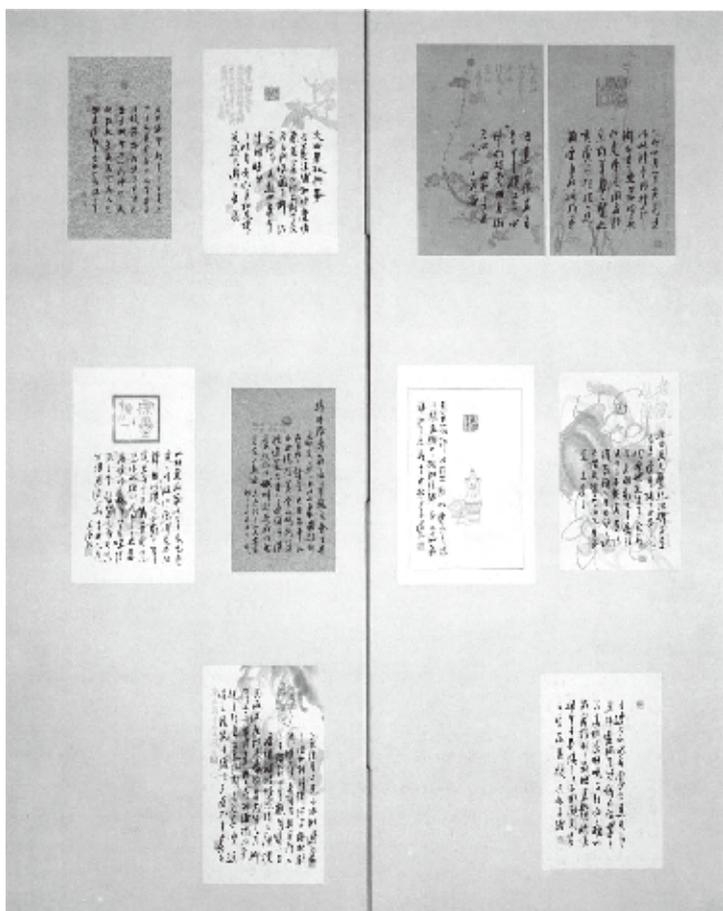
『現在、東京都江戸東京博物館では中村素堂の書作品や、素堂が自ら収集した書や資料を役500点収蔵しています。ここではその一部をご覧いただきます。

中村素堂は昭和の書家で、歌人としても活躍しました。西川春洞の高弟である武田霞洞に師事し、書家団体の貞香会を創立しました。西川春洞の子息である西川寧や松井如流ら同世代の書家らと交流したことが知られています。戦後に日本書道美術院が創設されると役員に就任し、続いて開催された日本総合書芸展(のちの毎日書道展)でも活躍するなど、戦後の日本書道界の復興に貢献しました。また、漢字

作家として篆書や隸書の作品を多く発表しました。《二字書「曲肱」》は、論語の一節にある、貧しい暮らしの中にある楽しみを示す言葉で、素堂の書齋に掛けられていたと伝えられています。

歌人としても活躍した素堂は、一九五〇年に宮中歌会始に招かれています。俳人で随筆家の河東碧梧桐や詩人・小説家の室生犀星、歌人で書家の大口周魚らの短冊からは、彼らの書に対して素堂が魅力を感じていたことと同時に、筆者に対する興味や尊敬の思いも相まって、素堂が楽しみながら収集していることを想像させます。また、国文学者で歌人の吉澤義則の短冊の背面には、「昭和二十八年十二月三十日これをくださる」という、素堂による書き込みが残されており、吉澤から素堂が短冊を譲り受けたことを示しています。かように中村素堂コレクションからは、素堂が感じていたであろう「書を集める楽しみ」と、その豊かな交友の一端を知ることができるのです。』

(参考…東京都美術館目録)



'18 貞香会総合書展

1月20日～26日
東京都美術館

出品は第一部会員展122点。第二部書範展は師範部18点、一般部127点、教育部240点、半紙部258点の合計643点。第一部、第二部の総数は765点にのぼった。

21日には会場内で午前には教育部授賞式が、午後に一般部授賞式がとり行なわれ、教育部では中村青藍理事長の挨拶、今井泰篁教育部審査長の講評、一般部では赤平泰処会長の挨拶と講評があり、参列した受賞者を祝福された。三先生は異口同音に「受賞した人も自分の作品を見て反省し、他の人の作品の良いところを学んで次に生かして」と激励されていた。

前日の20日には午前中に、大作展出品者の富田青軒、上野泰僊、岩崎芳穂三氏による席上揮毫会が開かれ、多数の参観者でにぎわった。午後には大作展出品者による作品解説が催され、聴講者が多数つめかけ、盛会となった。



教育部審査



一般部審査



今井泰篁教育部審査長講評



中村青藍理事長挨拶



会場風景



赤平泰処会長より賞状授与

18 貞香会総合書展 受賞者

師範部

貞香会会長賞

根本 江南
田辺 由美

専心社賞

高柳有里沙
橋本 和奏
松島 翠柳

特選

飛田 静風
志太 恵佳
向後 佳溪
毛利 佳峰
土屋 秀樹
杉山 正巳
今泉伊代子
清水 秀峰
常陸 民生
根布谷順子
奥村 珠翠
雜賀 誠芳
小林 如雪
五喜田幽石
井出 映泉
江藤 静蘭

上野 梨華
今野 沙穂
中川 秀雲
伊藤 泉映
有田 泉尚
坂本 友香
榎本 良子
村山 順子
長畑 裕子
林 玉凜

秀作

須藤 剛
宮田 寛子
住谷 郁
佐久間琴弓
出口 哲
若梅 照華
椎名 祥山
山口真由美
田杭 聡子
石田 光子
小滝 洋一
田窪 青蘭
渡辺 蘇心
金田万由美
松沢 栄一
高橋 美彩
赤井 晴香
仲井 照子
青木江梨花
長田 晴海
瀧澤 理子
山口 秋草
酒井 貞子
高橋英美子
峯岸 悦子
青木 照美
吉岡 紀子
和田由香利

入選

高安のり子
鈴木 寿子
新田 昭雄
大戸 幸江
吉澤 春美
額賀 絵美
小島 美子
君島 香織
佐藤 律子
宮村輝陽子
野田眞紀子
内藤 学
芦刈 凌
山宮 美萩
山本 恵翠
佐藤 玄風
三宿 康子
宮川 米子
山崎夏樹斗
本多登美雄
中村 幸史
上原さおり
吉田 光陽
松下 彩虹
渡邊千恵子
西山 尚子
天野 素子
宇敷 優花

一般部

貞香会奨励賞

新井 由香
柿沼 陽和
山内 開

我満望菜美
稲見 尹弘
吉澤 光子
深谷 節子
齊藤美津江
浅野 照雄
河合 雪華
古宇田順一
吉田 華月
広田 瑣葉
菊山 隆嘉
原 美鈴
牛村ひろみ

書範社賞

今井 文子
小林 美子
西山 侑希

邊見 順子
川口 康子
稲葉 敏枝
加瀬 順子
石毛 香雲
中島 恭子
池ヶ谷千恵

石川 綾子
佐藤 功子
久保 龍鳳
浪川 祐美
川本 桃子
堀井 雅
小林 悟

龜田 恵子
田村美佐子
藤原 優子
上野 穂香
石川 高子
前原 英子
武井 幸子
壺井 尚子
仲野 好重
国貞 史絵
鶴見 侑樹
高木美恵子
伊藤 星
高野 創
寄山 順華
田口 和美
佐藤 史帆
山中 里沙
北島 妃恵

専心社賞

鈴木 萌生
藤村 蘭佳
葎葉 香織

特別賞

石川 琴子
伏木 瑠奈
芳田 晏奈
三宅 朱莉
確井 美雨
水上 千湖
加茂田真緒
荒木 姫花
岡崎 星
金子 凌
山崎 百華
佐久間百萌
上野 心優
大島 美咲
佐藤 光生
小林 博香
佐々木七央
羽田 芙美
山崎 杏凜
谷田貝美桜
神戸 沙也
関口 実来
海老原耶々
和氣 遥花
手塚 孔星
小倉 巡
渡辺 夢菜
望月 彩音
浅利 紅
山崎 龍星
片岡 來唯
上野 優羽
泉田 絢音
川井 風太
田上 愛瑠
川俣美咲希
小野塚優真
内山 彩音
荒木 天
北村 和美

秀作

長谷川美咲
照内 詠子
久米田 芽
宇賀持里緒
大橋 太陽
櫻井 陸翔
服部 千夏
大西 美羽
石井佳奈芽
長谷川杏果
野間 美羽
大越 千慧
佐藤 陽音
葛西 百紅
伊藤 太一
金子千音星
金子千音星
佐藤 礼優
野口 凜華
菱沼 華
鈴木みのり
根本 心春
神藤 真人
嶋口 睦美
仁井名 樹
佐藤 杏
川井隆之介
中野 優結
大塚可南子
渡邊 かえ
岩本 彩愛
櫻井 遥香
内山 初音
間宮 一期
佐藤 那音
後藤 莉奈
藤岡 悠良
折原 まゆ
菊山 さら
玉城 花織

佳作

可知 權
平林 星来
曾根 楓華
岸端 里季
山田 海里
塚本 真浩
住谷 和美
佐藤 巨希
中條 凜我
板子 奏心
高橋重羽波
大石 蒼馬
増田 祐翔
小鹿 心菜
鈴木 夕理
向後 芽依
太田友妃代
和氣 駿祐
浅谷 珀虎
金田 愛蘭
小林 華穂
間宮 知花
西野 智美
村田 莉瑛
川井 陸人
田上 俊哉
宮崎 蒼空
下館 智也
永吉 大澄
海野 怜香
森 奏也

山田 陸駆
小鹿 温菜
桑原 廣雅
安島由莉奈
山田 朝陽
小早志菜南
荒木 岳道
杉田 康輔
大谷 悠夏
山本 裕貴
平野 琴梨
和田さくら
菊地 天音
篠原 秀美
織田 智秋
桂川 真寿
田村 美尋
壽々木唯衣
清水 彩音
石井わかば
水野 沙弥
佐藤 花
平林 愛来
曾根 健心
館田 陽花
栗栖 拓人
住母家愛美
富沢 瑠奈
近藤 美南
関口 実橙
間宮 爽介
佐藤 花
渡辺いぶき
江波戸実歩
安田 啓人
杉森 由歩

西南歸路遠蕭條
 倚檻魂飛京可招
 墜閣半竿同雁鷺
 天長草樹瘞雲霄
 露_三水氣浮山麓汎
 嘗風弄_三麥苗誰使
 瘦官輕去國此身
 無計老漁樵

富田青軒

古之斗深
 祥瑞_三何_三以
 意_三之_三何_三况
 斗_三之_三何_三况

上野泰僊

池_三艸_三只_三茂_三尊_三嘗_三眠
 聽_三雨_三敵_三吳_三騫_三朝_三食
 繁_三漢_三馬_三刀_三歸_三管
 琴_三涇_三紅_三應_三滿_三溪_三橋
 線_三漸_三平_三南_三園_三子_三酒
 伴_三音_三約_三候_三新_三晴

岩崎芳穂

'18 貞香会総合書展

《ダイジェスト》

◎選抜大作展を併催

2018年度は、各書展において輝かしい賞を受賞された方々による選抜大作展を併催した。

〔出品者〕

富田 青軒 (第69回毎日書道展 毎日賞)

上野 泰僊 (第52回貞香書展 特別賞・審査会員推挙)

岩崎 芳穂 (第52回貞香書展 特別賞・審査会員推挙)

◎席上揮毫を開催

展示会場にて、1月20日(土) 午前10時より富田青軒先生、上野泰僊先生、岩崎芳穂先生による席上揮毫を開催。多数の観客の前で、

それぞれ先生方が筆さばきを披露、最後に解説をされて、皆さんの前で想いを伝えられ、大いに賑わった。



席上揮毫の富田青軒先生



席上揮毫の上野泰僊先生



席上揮毫の岩崎芳穂先生

◎作品解説を実施

1月20日(土) 午後1時から、展示場内にて大作展出品者による作品解説を行った。

◎懇親会を開催

1月21日(日) 午後5時から、美術館内レストラン『サロン』にて懇親会を開催。会員、出品者合わせて80名ほどが参加、景品があたるなどし、大いに盛り上がった。

2018年度、規定により左記の方が昇格しました。

おめでとうございます。

◎委嘱昇格者

今野沙穂 根布谷順子

◎会友昇格者

有田泉尚 伊藤泉映 今井文子
杉山正巳 渡邊蘇心



第60回記念 東方書展

3月25日～31日
東京都美術館

第60回記念東方書展

中村青藍

東方書道院の歴史を築いてきた最高会議員制が廃止され、新たに理事・評議員制に生まれ変わり、その初回展が今回の記念展となりました。また、会期が期初から期末に移行された関係で2年ぶりの開催となりました。

記念展に相応しい事業として【特別展示】・東方書道院「先達の書」が企画され、当会から中村素堂先生、古澤素雨先生、佐藤中処先生の往年の作品が展示されました。記念事業のハイライトは3月25日(日)に帝国ホテル孔雀の間において、授賞式、講演会、祝賀会が満席の中、盛大に行われました。

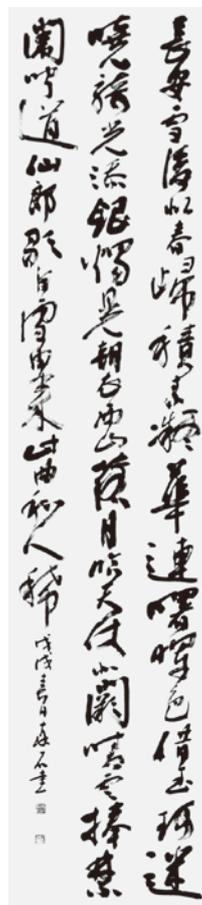
更に、本展では第四部・自由書部が新設されました。他にない極めて特異性のある自由書部の真価が問われる中で、新たな挑戦が始まるものと期待しております。

出品点数については、同人366点、準同人177点、一般公募390点、合計933点でありました。期待された自由書部の公募点数は33点でした。

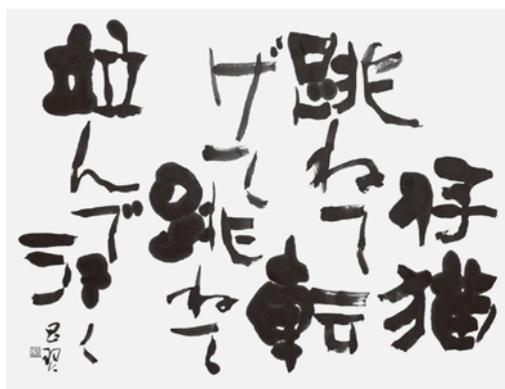
貞香会の出品点数は同人52点、準同人10点、公募27点、合計89点でした。入賞作品は、準同人の中から、特別賞・同人推挙に佐藤泰石さんが受賞され、同人推挙に2名、一般公募作品から特選3名、褒状9名の方々がめでたく受賞されましたこと、心からお喜び申し上げます。

第60回記念東方書展(優秀作品)

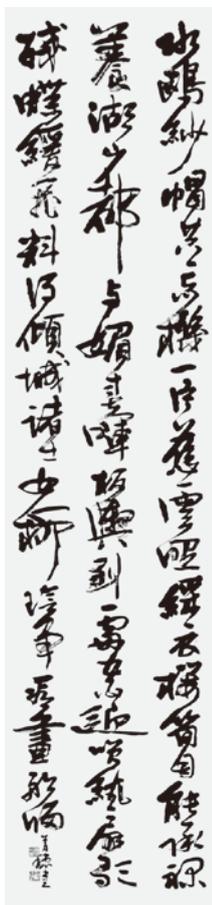
特別賞・同人推挙 佐藤泰石



同人推挙 佐怒賀昌琴



同人推挙 岩崎芳穂





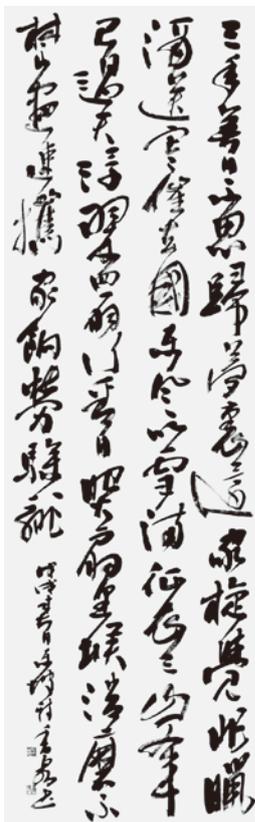
中村素岳先生



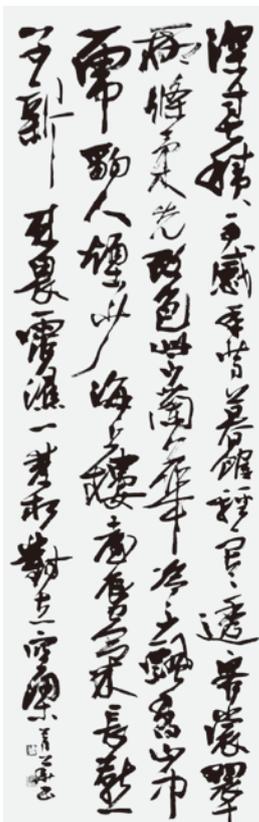
赤平泰処先生



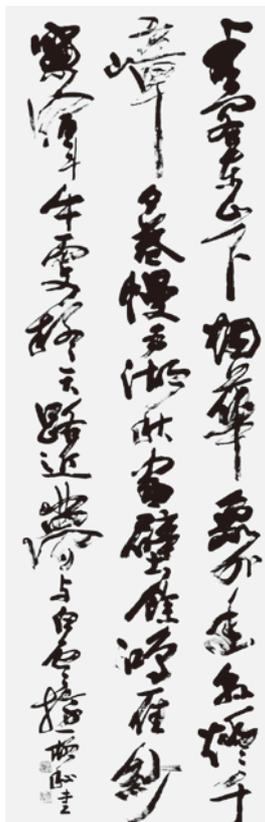
中村青藍先生



加地香泉先生



酒井芳華先生



飯野柳和先生

《審査員》

特別賞(同人推挙)選考委員 中村素岳

公募第一部「漢字部」

中村青藍

加地香泉

酒井芳華

公募第三部「少字数」

飯野柳和

公募第四部「自由書」

赤平泰処

◎特別展示「先達の書」

東方書道院設立から発展に貢献した先人らの功績をたたえて、特別展が開かれた。

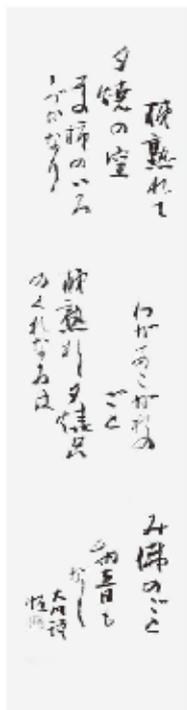
貞香会では中村素堂先生、古澤素雨先生、佐藤中処先生の作品が展示された。他に松井如流氏など。



中村素堂先生



古澤素雨先生



佐藤中処先生

◎授賞式開催

3月25日(日)、帝国ホテル「孔雀の間」にて授賞式が開催された。東方の運営に携わる顧問・中村素岳先生、副理事長・赤平泰処先生、理事・中村青藍先生の3名の先生方が授賞式などの記念式典にご尽力された。貞香会の受賞者、関係者ともに出席し、華やかな授賞式で共に喜びあった。



赤平泰処先生開会の辭



中村青藍先生賞状授与



中村素岳先生壇上より挨拶



受賞者の方々

◎ 特別講演会開催

3月25日(日)午後4時より、帝国ホテル「孔雀の間」で特別講演会が開催された。講師に、美術評論家の田宮文平先生が招かれ、「東方創設の理念と先達の書―第60回記念によせて―」という演題でご講演された。



講師紹介



講師の田宮文平先生

◎ 祝賀懇親会開催

3月25日(日)授賞式・特別講演会が終了後、午後5時半より帝国ホテル「孔雀の間」で、祝賀懇親会が開催された。ご来賓と会員の総勢四百名ほど出席され、華やかに盛大に行われた。



ご来賓の方々



祝賀会の様子

◎ 第60回記念 東方書展 入賞・入選者

特別賞・同人推挙
佐藤泰石
岩崎芳穂
佐怒賀昌琴

第一部 特選
浦野芽衣
下川翠雨
富田青軒

褒状
阿部 匠
近藤朗詠
関根熙雲

池ヶ谷千恵
高橋久美子
矢口昌華

吉田 和蓉
小野浄徑
青木照美

浅野照雄
江原覺堂
上野梨華

津村佳園
橋本和奏
柿沼陽和

新井由香
杉山桃月
大芦 卿雲

渡辺蒼秀
藤沼芳碧

田邊佳代子
松田翠心

佐久間琴弓

第四部 褒状
入選
峯岸悦子

◎ 昇格者

第60回記念東方書展受賞に伴い、東方書道院の規定において、次回展より次の方が昇格になります。おめでとうございます。

〔同人昇格〕 佐藤泰石 佐怒賀昌琴 岩崎芳穂

第53回 貞香書展

6月27日～7月9日
国立新美術館

第53回貞香書展審査報告

坪内雪山

第53回貞香書展が6月27日(水)より7月9日(月)迄、国立新美術館で開催された。運営に携わった実行委員の皆様大変ご苦勞様でした。

総出品点数は279点。出品点数の内訳は名誉会員・審査会員75点、審査対象となる会員30点(内新昇格者5点)、委嘱44点(内新昇格者7点)、会友23点、公募第1部27点、公募第2部80点であり、第50回展より毎年減少している。昨年より公募の第1部でのマイナス15点は大きな減少と捉えるべきであろう。

審査は6月17日(日)、国立新美術館地下審査室にて9時50分より打ち合わせ全体会議の後、第1部公募・会友の目通しが行われた。昨年までは第1部審査員、第2部審査員と別れて、それぞれに鑑別と審査が行われたが、今回より公募第1部・会友、公募第2部共に同じ15人の審査員(今回は1人欠席の14人)で行われた。これは昨年より大きく変わった所である。眼通しの後、公募第2部の鑑別が行われ、続いて投票による第1部、第2部審査が行われた。同点の場合は再度挙手により上位入賞作品が決められた。

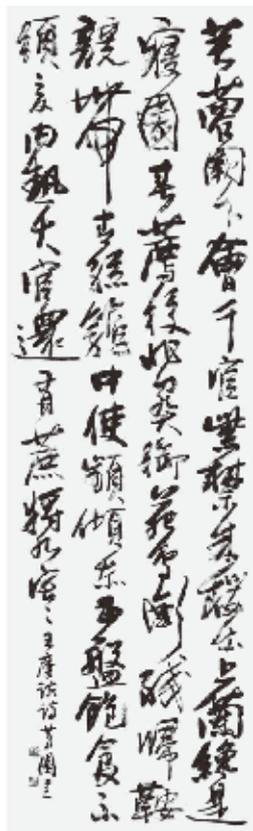
午後からは公募審査確認と併行し特別賞・審査会員推挙、推薦の選考が行われ、まず特別賞の1点を会員の中から本年度特別審査員、講演会講師である大東文化大学教授の高橋利郎先生にご選考いただき、その後選考委員の先生方によりもう1点が選ばれた。委嘱の中から5点の推薦作品も選考された。合同会議において選考作品が紹介され、第1部、第2部の上位入賞作品も決定された。選考された作品は全体のバランスと空間の取り方、うまさがあり、墨量も十分に使い安定している作品が多かった。次回の展覧会にはますます精進、努力され、勢いのある作品で会場を満たしていただきたい。

第53回貞香書展(優秀作品)

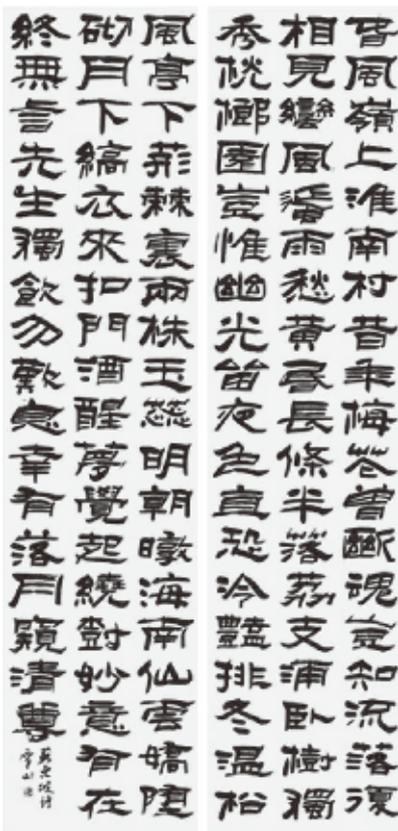
特別賞・審査会員推挙 平澤大廣



特別賞・審査会員推挙 倉石芳園



坪内雪山先生(本年度審査長)



第53回 貞香書展受賞者

特別賞・審査会員推挙

平澤大廣
倉石芳園

推薦・会員推挙

吉田和蓉
北村亭弘
浦野芽衣
草間篁山
松浦芳春

公募1部

■特選

漢字多字数部門

新井由香
柿沼陽和
青木照美

仮名部門

中川秀雲

■準特選

漢字多字数部門

土屋秀樹
根本江南
松本芳瑠
江藤静蘭
渡辺蘇心
中島恭子

漢字少字数部門

鶴見侑樹
今井文子

仮名部門

志太恵佳

■秀作

漢字多字数部門

有田泉尚
岩館紅楓
中谷里菜
飛田静風
鈴木秀華
成田素旭

小堀竹栖
小山真裕美
岡 聖紅

峯岸悦子
松下彩虹
高柳有里沙

川本桃子
五喜田幽石

杉山桃月

漢字少字数部門

川本桃子
杉山桃月

公募2部

■特選

漢字多字数部門

永井 雅
中上和美
大塚那津子

■準特選

漢字多字数部門

榎本良子
大木秀佳
壺井尚子
曾根信行
石毛香雲
松島翠柳
鈴木彩香

漢字少字数部門

村山順子
長畑裕子
ローゼンフェルド朋子
小林 悟
木村育代

仮名部門

佐々木 翠

■秀作

漢字多字数部門

伊藤香風
毛利佳峰
長田晴海
萩原柊花
上杉香莊

漢字少字数部門

田杭聡子
村田良苑
若生瑞峰
田口和美
阿部梨花
田中峰堂
酒井貞子
小滝洋一
鈴木翠鴻
水上千湖

亀田恵子
佐藤玄風
伊藤美恵
佐藤由紀
高田美佐江
金田万由美

猪瀬貞櫻
宮川万理子

仲野好重

仲野好重

仲野好重

仲野好重

仲野好重

仲野好重

仲野好重

仲野好重

仲野好重

◎昇格者

第53回貞香書展受賞に伴い、本会の規定において、次回展より次の方が昇格になります。おめでとうございます。

〔審査会員推挙〕

平澤大廣 倉石芳園

〔会員昇格〕

浦野芽衣 北村亭弘 草間篁山
松浦芳春 吉田和蓉

〔委嘱昇格〕

青木照美 新井由香 岩館紅楓
大芦卿雲 五喜田幽石 小堀竹栖

塩野洋子 志太恵佳 篠原翠峰
田辺由美 土屋秀樹 中川秀雲

中島恭子 根本江南 松下彩虹

〔会友昇格〕

上杉香莊 川本桃子 杉山貞馨
長畑裕子 橋本和奏 松島翠柳
峯岸悦子

第53回 貞香書展 《ダイジェスト》

53回目の貞香書展が国立新美術館で開かれた。それに先だつ6月17日に、地下準備室で審査が行なわれた。今年は特別審査員として大東文化大学教授の高橋利郎先生をおむかえし、特別賞の選考にあたっていただいた。

6月30日10時半より館内講堂において、高橋先生により「近代日本の書」と題する講演が行なわれ、熱心な聴講者が多数つめかけた。同日二時より授賞式が同じく講堂においてとり行なわれ、喜びの顔があふれた。7月9日一時より講堂において三浦看山先生、根本泰邸先生、奥山泰嶺先生の席上揮毫会が催され、たくさんの方が見学におとずれた。

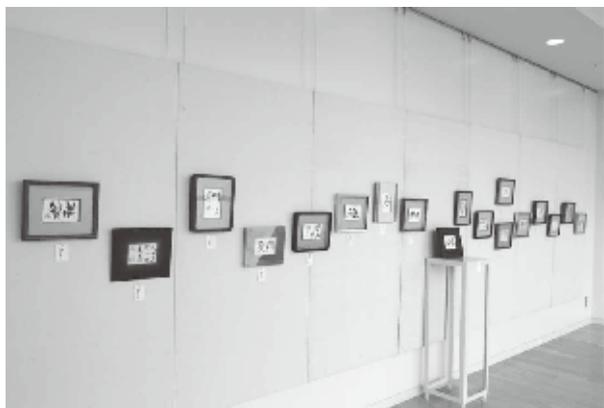
又、展覧会場奥の特別室では、会長、理事長以下役員による小品展(出品18点)も併催され盛況であった。



高橋利郎先生による講演会



授賞式



役員小品展会場



審査風景



奥山泰嶺先生席上揮毫



根本泰邸先生席上揮毫



三浦看山先生席上揮毫

◎ 外部審査員による特別賞の審査・選考を実施

第53回貞香書展は、外部審査員に大東文化大学教授の高橋利郎先生に特別賞・審査会員推挙の審査・選考を依頼し、今年は平澤大廣さんの作品が選ばれた。



高橋利郎先生による審査風景



特別賞選考作品の解説（高橋利郎先生）

◎ 授賞式を開催

6月30日（土）午後2時～3時、国立新美術館講堂にて、授賞式を開催した。高校生から一般の方まで受賞者が多数出席し、赤平泰処会長、中村青藍理事長からそれぞれ賞状を授与された。受賞された方々は、喜びに満ち溢れていた。

◎ 講演会を開催

6月30日（水）午前11時～12時半、国立新美術館講堂にて、高橋利郎先生（大東文化大学教授）に「近代日本の書」の演題で講演を賜った。受講者多数で講堂は満員となり、充実した講演会となった。

◎ 席上揮毫を開催

国立新美術館講堂にて、7月9日（月）午後1時～2時、三浦看山先生、根本泰邸先生、奥山泰嶺先生による席上揮毫を開催、多数の観客の前で見応えのある作品を揮毫された。

◎ 懇親会を開催

銀座・サンミ高松において、6月30日（土）午後4時より祝賀会を開催。特別審査の高橋利郎先生（大東文化大学教授）をはじめ、西村修一様（毎日書道会専務理事）、マスコミ各社の方々など多数ご出席され、にぎやかに懇親会が行われ、大いに盛り上がった。



西村修一専務理事挨拶



懇親会の様子

第70回 毎日書道展

7月11日～8月5日
国立新美術館
7月19日～25日
東京都美術館

第70回毎日書道展を審査して

松本宜響

第70回毎日書道展は七月十一日東京六本木国立新美術館で開幕した。六本木会場は八月五日まで前後の四期にわけて作品が陳列され、東京都美術館においても七月十九日から二十五日まで理事、監事、東京展出品の一般公募入選の作品などが展示された。公募点数は二八九二点、昨年より八一点減の出品であった。

漢字部I類の審査は五月二十五日(金)二十六日(土)の同日にU23二九二点公募三五七七点の入落鑑別を行った。相変わらずの超ハードな審査で入落の判定を五秒か六秒ともいわれる一瞬に下す。

書を取りまく環境は当たり前になった現在、大きく変わってきている。書道人口も減少傾向になかなか歯止めがかからなくなってきた。毎日に限らず貞香会も苦戦している現状がある。このような中で貞香会の公募出品点数はU23を含めて一六四点、受賞者は毎日賞に飯野柳穂さん。入賞された方々には日頃からの研鑽に心から敬意を表するところです。

漢字部一類の鑑別審査を担当して感じたことをあげます。

- 出品は七言律詩五十六字以上の多字数行草作品が多い。
- 隷書作品は十点に一点くらいの割合でしょうか、時折出てくる感じですが。
- 審査員の手が多く上がるのは、三・四行以上の行草作品です。出品数が多いのだから審査員の手が上がるのは当たり前ですが、それは審査員の多くが文字数の多い作品を評価しているということなのです。

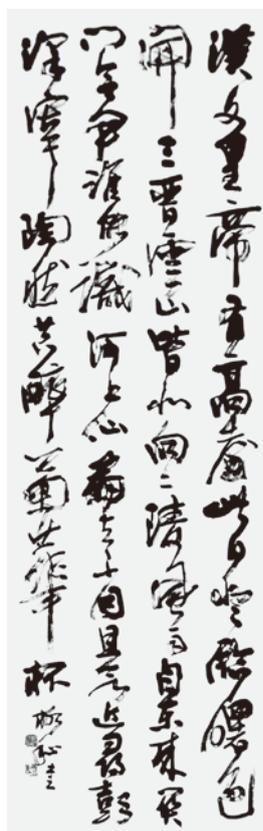
隷書作品については全体構成・字間行間・白黒の対比・メリハリがきいた作には間違いなく点数が入っていたように思います。貞香会の隷書作品は他会派よりも安定感があります。隷書作の研究出品が新たな展開を生むよう

にも思いました。

他会派の毎日賞秀作賞入賞作品を見ると貞香会にはない良いところがあります。他流試合の公募展に出品するからには出品作品の良い所を盗み取って自分の作品に生かしてゆかなければならないと思つたことでした。

第70回 毎日書道展 (優秀作品)

毎日賞 飯野柳穂



本年度当番審査員(漢字I類) 松本宜響 先生



第70回 毎日書道展

《ダイジェスト》

◎毎日書道展 特別展示『墨魂の昂—近代書道の人々』開催

毎日書道展は70回目の節目を迎え、『墨魂の昂—近代書道の人々』と題して、西郷隆盛、副島種臣、大久保利通、伊藤博文、犬養木堂はじめ三輪田米山や日下部鳴鶴、西川春洞、比田井天来、吉田苞竹、尾上柴舟等、明治期から終戦期までの文人、政治家、活躍した書家など約65人の作品が一堂に揃い、特別展示が開催された。

◎現代の書新春展で

中村素岳先生席上揮毫

1月3日(水)～9日(火)銀座で開催された2018現代の書新春展(毎日新聞社・毎日書道会主催)で、貞香会より顧問の中村素岳先生が9日(火)に席上揮毫を披露された。中村先生の迫力のある筆さばきは大勢の観客を魅了し、好評を博した。



◎『今をえがく書かながわ』毎日現代書巡回展の開催

第70回記念毎日書道展の記念事業の一環として、神奈川県にて巡回展が開催され、3月30日(金)～4月8日(日)まで横浜のそごう美術館にて貞香会より赤平泰処会長と光谷素仙副理事長の作品が展示された。



赤平泰処先生作品

◎毎日書道展 審査会員—栃木の会書展の開催

栃木県の毎日書道展審査会員による栃木展は、平成30年度は第14回展を8月18日(土)～20日(月)まで栃木県総合文化センターで開催。貞香会より、参与の松本宜響先生と理事の鈴木蓮徑先生が出品された。一人5メートルの展示幅に2点ないし3点の見応えのある作品が展示された。



光谷素仙先生作品



松本宜響先生出品作品



鈴木蓮徑先生出品作品

第13回国際書道交流シンガポール展訪問

第13回国際書道交流シンガポール展（主催・毎日書道会）が9月1日～5日まで開催された。2年ごとに開催される展覧会で、今年はシンガポールにおいて行われた。日本からは、毎日書道会より代表作家40名が作品を出品し、赤平泰処先生が出品された。

このシンガポール展に日本より参加する訪問団が結成され、団長に日本書道美術院の理事長鬼頭墨峻先生、副団長に貞香会会長の赤平泰処先生の団で訪問することになった。毎日書道会からは専務理事の西村様が参加し、総勢14名の団員であった。

8月31日、羽田国際空港に午前9時集合。とても晴れた日で、定刻通り離陸した。シンガポールには、午後4時半に到着し、シンガポール書道協会の方々にお出迎え頂いた。その後、ホテルで会食の歓迎を受けた。

9月1日、とても晴れた暑い日であった。シンガポール書道協会の施設で各国の団長、副団長の先生方の作品が展示してある会場で開会式が行われ、女性初の大統領・ハリマ大統領が列席された。そして大統領が「吉」を揮毫して会場が大変盛り上がった。その後、各国の団長が席上揮毫をして、その作品をハリマ大統領が見学され、どういう作品なのかなど各国の揮毫者に伺っていた。

そして場所をマリーナマンダリンホテルに移して、シンガポール書道協会50周年の記念式典に出席した。ハリマ大統領はじめ、総勢700人の盛大な会であった。

午後は、シンガポール書道協会の会場に戻り、副団長の先生方の席上揮毫が始まった。日本は貞香会の赤平泰処先生が、「鶴壽千歳」を篆書で半切全紙と揮毫し、最後に半切に行書で「白雲依静渚」と揮毫した。席上揮毫が外で行われたので、暑さと熱気の中の揮毫であった。その後、シンガポールの象徴のマーライオンの見学をした。

夕食では、席がシャッフルされて他の国々の方と交流できる席であった。各国の団長、副団長の先生方の作品をくじ引きで参加者に手渡された。赤平先生の作品は中華民国の先生に当たった。

9月2日、少々小雨の降る中、日本の先生方の展示している第三会場に向かった。シンガポール中国文化センターの高層ビルの中での展示であった。展示された力作を見学して最後のお別れの昼食会にロイヤルクイーンホテルへと向かった。昼食会では、食事の後に各国の出し物を披露して盛り上がった。日本は、団員みんなで「いい日旅たち」を熱唱した。

9月3日、セントーサ島など観光をして日本に無事帰国。

2年後の開催国は中国に決定した。書道を通じて各国の方々との交流出来た事は有意義な体験であった。

鈴木蓮徑記



墨妙稱古紙
詞華驚世尺

玉清遊句 赤平泰処

赤平泰処先生作品

錬成会

平成30年2月18日(日)、春の気配はまだ遠く肌寒い日が続く気候の中、南浦和・鶯毛堂の錬成会場において、毎日書道展、貞香書展に向けた錬成会を行なった。

午前9時開場の前から、意気揚々と参加者が次々と集まって、準備しながら講師の先生方が来られるのを心待ちしていた。

時刻通りになり、根本泰邸事務局長の挨拶で開校式が行われ、講師の赤平泰処先生から挨拶があった。「先日、冬季オリンピッククフィギュアスケートで日本男子が、金メダル・銀メダルを取りました。その背景には並々ならぬ努力があつての結果であります。皆さんも、毎日書道展、貞香書展に向けて良い作品が書けるようがんばって努力してください。」と檄が飛び、錬成会がスタートした。

開始後もなく、講師の中村素岳先生も到着され、さっそく講師の先生方にお手本の依頼をお願いする列ができ、先生方の筆使いを間近で見えて、また一人一人細かなアドバイスを直に受けた。

また午後から、本年度毎日書道展の漢字部I類審査員の松本宜響先生もかけつけて、作品の批評会が行われた。一人一人丁寧に講評をされ、作品作りのポイントとコツについてご指導をいただいた。

今年は、30名が参加、更に作品のみの参加も加わり、百畳敷きの会場は作品で埋め尽くされた。最後に、講師の先生方と最後まで参加していた皆さんで記念撮影、無事に解散。今年も充実した錬成会となった。

今回は、4月7日(土)・8日(日)にBumB東京スポーツ文化館にて錬成会があります。広い会場で書くのは、作品の迫力や墨量の変化、文字の配字など、普段気が付かない部分が発見できる有意義な場所でもあります。練習後のビール一杯も楽しみの一つ(笑)。日帰り参加も歓迎です。ぜひ、お仲間をお誘い合せの上、積極的にご参加ください。

(飯野彩心記)



松本先生による作品批評(右から2人目)



錬成会場の様子



錬成会終了後の集合写真



赤平先生によるお手本書き

鍊成合宿

平成30年4月7日(土)・8日(日)、桜の花びらが舞い、とても暖かい晴れ晴れとした天候の中、東京の夢の島公園の中にあるBUNBUN東京スポーツ文化館の剣道場・柔道場において、毎日書道展、貞香書展に向けた鍊成合宿を行った。

参加者は7日(土)31名、8日(日)22名、宿泊15名であった。

午前10時会場前から会員の皆さんがぞくぞく集まり、赤平泰処先生が到着され準備が整った段階で、根本泰邸事務局長の挨拶で開校式が行われた。開始からすぐに赤平先生に細かいご批評を頂く姿や、先生の筆使いを熱心に見入っている姿も見られた。また、会員の皆さんでお互いに学び合ながら、切磋琢磨している様子もうかがえた。



合宿鍊成会場の様子



松本先生による作品批評(右から2人目)



赤平先生によるお手本書き



講評会の様子

午後からは本年度毎日書道展審査員の松本宜響先生もいらっしやって、出品作品のお目通しを兼ねて、赤平先生と共にご批評、ご指導を丁寧に頂いた。この日に集まった毎日書道展の作品は約80点ほどであった。漢詩を読みながら誤字・脱字などご指摘いただく作品もあった。時間の許す限りご指導を頂いた。

宿泊の方たちの中には夜10時まで練習する人も多数見られた。最終日も赤平先生のご指導を頂きながら4時半まで練習し、片付けをして5時解散。昨年同様充実した鍊成合宿であった。また、社中関係なく和気あいあいと親睦できたことも有意義であった。参加者の方から来年も是非鍊成合宿を開催してほしいというお言葉も頂いた。

(鈴木蓮徑記)

洗碑会

五月二日、爽やかな風が吹いていた。毎年、中村素堂先生の誕生日に、記念碑が建立されている小石川傳通院で洗碑会が行われる。傳通院は、浄土宗の名刹として知られ、慶長七年（一六〇二）に徳川家康公のご生母於大の方が逝去、傳通院を菩提寺とされてから、以来徳川家由縁の方々の諸廟所が多く建っている。

かつてここ傳通院で、素堂先生のお稽古も行われており、我が貞香会とも大変関わりが深い寺院である。素堂先生の稽古は夜遅くまで及んで、しばしば電車やバスの終電がなくなり学生達は西巢鴨の学寮まで走って帰っていた、と赤平泰処会長が話していたことを思い出した。

改めて素堂先生揮毫の「如是我聞」の碑を見た。曇り空のせいか、いつもより重厚な趣きを感じられた。

そうしているうちに、夕刻になり素堂先生のご親族、弟子、孫弟子、太正大学書道研究部の学生など縁由の方々が集ってきた。今年も、素堂先生の御嬢様の笠松治子横がご参列くださり、出席者おひとりおひとりにご丁寧な挨拶をされていた。

毎年欠かさずお出ましくださる西本義顕先生は、開始の数時間前にお見えになり、お帰りになってしまったそうだ。定刻の十六時半となり、今

井泰篁理事の司会進行で、洗碑会が始まった。まずは貞香会代表として赤平泰処会長が挨拶され、親族のご紹介、代表者による記念碑のプレートが浄められた。

続いて参列者一同で、菩薩願行文、般若心経をお称えした。洗碑の儀が終わろうとするころ、ポツポツと雨が降り出してきて、最後に、恒例の集合写真を行い、滞りなく終了した。

毎年ご参列いただいた玉川堂の齋藤彰社長が、「昔は、いつもこの時期、傳通院で植木市があったので、洗碑会の後、植木を買うのが楽しみだったんですよね」と懐かしそうにお話をされていた。どうやら、お祭りの時期がずれてしまったようで誠に残念である。今年の貞香書展は、第五十三回を迎える。

あと二年後には、

五十五回の記念展と東京オリンピック開催。「しっかりやらないと」と、記念碑から素堂先生が檄を飛ばしているような気がして、身の引き締まる想いがした一日であった。

（飯野彩心記）



親族による碑の清め



読経の様子



〈平成三十年度事業報告〉

主な展覧会

○'18 貞香会総合書展

会期…平成30年1月20日(土)～26日(金)
会場…上野・東京都美術館
席上揮毫…1月20日(土) 10時～11時 展覧会場内
作品解説…1月20日(土) 13時～14時 展覧会場内
授賞式…1月21日(日) 教育部11時～一般部14時 展示会場内
懇親会…1月21日(日) 17時 美術館内レストラン『サロン』

○第60回記念東方書展

会期…平成30年3月25日(日)～3月31日(土)
会場…上野・東京都美術館
☆特別展示 東方書道院「先達の書」
講演会…6月30日(土) 11時～12時30分 美術館内講堂
講師…田宮文平先生(美術評論家)
演題…「東方創設の理念と先達の書―第60回記念によせて―」

○第53回貞香書展

会期…平成30年6月27日(水)～7月9日(月)
会場…六本木・国立新美術館3A
授賞式…6月30日(土) 14時 美術館内講堂
懇親会…6月30日(土) 16時 サンミ高松 銀座7丁目店
講演会…6月30日(土) 11時～12時30分 美術館内講堂
講師…高橋利郎先生(大東文化大学教授)
演題…「近代日本の書」
席上揮毫…7月9日(月) 13時～14時 美術館内講堂

○第70回毎日書道展 東京展

会場…国立新美術館
会期…平成30年7月11日(水)～8月5日(日)
☆特別展示「墨魂の昂・近代書道の人々」
会場…東京都美術館
会期…平成30年7月19日(木)～7月25日(水)

洗碑会

日時…平成30年5月2日(水) 午後4時～ 受付
午後4時半～ 洗碑会
会場…文京区小石川・傳通院

錬成会

○錬成会

日程…平成30年2月18日(日) 9時～17時
会場…鷺毛堂錬成会場・さいたま市南区文蔵4・27・3
内容…毎日書道展・貞香書展に向けての作品制作

○錬成合宿

日程…平成30年4月7日(土)～8日(日) 9時～17時
会場…BumB東京スポーツ文化館・江東区夢の島2・1・3
内容…毎日書道展・貞香書展に向けての作品制作および下見会

貞香会後援の展覧会

○荒木大樹書展

会期…平成30年5月29日(火)～6月3日(日)
会場…銀座鳩居堂画廊3階

○光谷素仙書展―古希記念展―

～良寛禅師を中心に～
会期…平成30年10月2日(火)～7日(日)
会場…東京銀座画廊7階

○第32回西蓮会書展

会期…平成30年10月12日(金)～16日(火)
会場…銀座・かねまつホール5階

○第49回墨光書展

会期…平成30年10月17日(水)～21日(日)
会場…春日部市民文化会館

○和墨第11回書道展

会期…平成30年10月19日(金)～22日(月)
会場…香取市佐原中央公民館

○第2回素心会書展

会期…平成30年10月23日(火)～28日(日)
会場…東京銀座画廊8階

※この他、貞香会会員が活躍する展覧会の情報は、貞香会ホームページのインフォメーションにて掲載しています。詳しくは、そちらをご覧ください。

〈2019年度行事予定〉

主な展覧会

○19 貞香会総合書展

会期：2019年1月20日(日)～26日(土)
会場：東京都美術館
席上揮毫：1月20日(日) 14時～ 展覧会場内
作品解説：1月20日(日) 16時～ 展覧会場内
授賞式：1月26日(土) 教育部 10時30分～
一般部 12時～ 美術館講堂
懇親会：1月26日(土) 17時～ 美術館内レストラン『サロン』

○第61回東方書展

会期：2019年3月25日(月)～3月31日(日)
会場：東京都美術館
☆企画展示：東方「十一人の書」
同人推挙：作品解説 3月25日(月) 11時～
席上揮毫(選抜当番審査員) 3月25日(月) 14時～
「十一人の書」ギャラリートーク 3月30日(土) 11時～
授賞式 3月30日(土) 14時30分～
懇親会：3月30日(土) 17時～ レストラン「ミューズ」
東方書道院ホームページ www.tohoshodouin.com

○第54回貞香書展

会期：2019年6月26日(水)～7月8日(月)
会場：国立新美術館3A
講演会：6月29日(土) 11時～12時30分 美術館内講堂
講師：恵美千鶴子先生
(東京国立博物館百五十年史編纂室長)
演題：平安時代の書的美く空海から行成まで
席上揮毫：6月30日(日) 11時～ 美術館内講堂
授賞式：6月30日(日) 14時～ 美術館内講堂
作品解説：6月30日(日) 15時～ 展覧会場内
懇親会：6月30日(日) 17時開宴 サンヒ高松三丁目店
予定

○第71回毎日書道展 東京展

会場：国立新美術館
会期：2019年7月10日(水)～8月4日(日)
会場：東京都美術館
会期：2019年7月18日(木)～7月25日(木)
表彰式：7月21日(日) 13時～
ザ・プリンスパークタワー東京
※各地方展、巡回展については、毎日書道会のホームページをご覧ください。
<http://www.mainichishodo.org>
※貞香会主催
〈毎日書道展入賞・入選者のこと〉
7月21日(日) 17時～
浜松町周辺で開催予定

洗碑会

日時：2019年5月2日(水)
午後4時～ 受付
午後4時半～ 洗碑会
会場：文京区小石川・傳通院

錬成会

○錬成会(日帰り)

日程：2019年3月2日(土)・3日(日)
9時～17時
会場：鷺毛堂錬成会場
さいたま市南区文蔵4・27・3
内容：毎日書道展・貞香書展に向けての作品制作

○錬成合宿

日程：2019年4月13日(土)～14日(日)
9時～17時
会場：BumB東京スポーツ文化館
江東区夢の島2・1・3
内容：毎日書道展・貞香書展に向けての作品制作および下見会

貞香会後援の展覧会

○和墨第12回書道展〈小品の書〉

会期：2019年3月28日(木)～31日(日)
会場：香取市佐原中央公民館

○高橋珠翠・鈴木蓮徑・飯野彩心 三人書展 〈今、向き合う書〉

会期：2019年4月30日(火)～5月5日(日)
会場：銀座大黒屋ギャラリー7階

○第50回記念墨光書展

会期：2019年10月8日(水)～13日(日)
会場：東京銀座画廊8階

○第33回西蓮会書展

会期：2019年10月11日(金)～15日(火)
会場：銀座・かねまつホール5階

〈事務局だより〉

◇訃報

2019年3月9日(土)、顧問の長谷川耕心(本名良昭)先生が御遷化されました。長谷川先生には貞香会発展のために多大なるご尽力をいただきました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

なお、学校法人大乘淑徳学園主催の学園葬は左記の通りです。

日程…2019年4月21日(日) 午前10時30分より
会場…淑徳巣鴨中学高等学校 アリーナ

◇年会費について

◎2019年度の年会費は、5月31日(金)までにご納入をお願いします。

◎2018(平成30年)度以前の年会費が未納の方は、お早めにお振込みをお願いします。

◇第54回貞香書展の作品締切

2019年度は、5月17日(金)までに各表具店に作品を搬入してください。締切厳守でお願いします。

◇住所変更について

住所・連絡先など変更がある方は、貞香会事務所までFAXまたはハガキなどの書面にてお知らせください。

◇会員の方の関係書道展について

会員の皆さんが活躍する書道展や催しものなどの情報を、貞香会事務所までお寄せください。展覧会の案内ハガキなど詳細をご郵送またはメールにて添付いただければ、貞香会ホームページのインフォメーションに掲載いたします。

◇ご意見・ご要望など

貞香会に関連する展覧会や行事などで、会員の皆さまよりご意見・ご要望などありましたら、貞香会事務所まで書面にてお寄せください。

◆表紙・中村素堂先生作品より

【編集後記】

◆今年度も多くの貞香会の事業にご参加ご協力いただき、有難うございました。

◆貞香会会報第8号をお届けいたします。会員の皆様の益々のご健筆とご活躍を祈念申し上げます。

◆二〇一八年度は、東方書展と毎日書道展が記念展で、先人達の書の特別展があり見応えがあつた。貞香会でも、人々を魅了する展覧会ができれば…。一丸となつて皆でがんばりましょう!

◆編集に携わり、何事も大勢の方の働き、ご協力があつて達成されているのだと、改めて実感した次第です。人と人とのつながりをこれからも大切にし、新しい年に向かって益々貞香会が発展しますよう、皆様と頑張る所存です。(茜逕)

〈彩心〉

平成三十年度(二〇一八年)

会報(第八号)

発行日 平成三十一年三月二十五日(月)

編集・発行 貞香会

東京都江東区新大橋一五四上二一
根本方

電話〇三(六二八四)〇四六六

印刷・製本 富寿印刷

東京都文京区大塚三三六九

電話〇三(三九四四)一一四一

